



志を立て 未来を拓く 心豊かな生徒の育成

三刀屋中学校だより

令和3年9月

TEL 45-2421

体育祭～新展開 輝け 僕らの物語～

9月11日(土)に体育祭を実施しました。気温が30℃近く上がるという予報から熱中症が心配され、生徒には塩タブレットの配布、スプリンクラーの設置、テントの増設等で対策をしましたが、当日は、秋晴れで絶好の体育祭日和となりました。本来なら、多くの保護者の方、地域の方、お世話になっている方にご覧になっていただきたかったのですが、全国的に緊急事態宣言が出ている都道府県があり、12日以降も延長される予定であったこと。また、感染力が強いデルタ株が流行しており雲南市周辺の市でも感染者が発生している状況から、昨年同様に入場制限をかけさせていただきました。また、生徒の方も招集場所や全体が集合する時は、マスクの着用、競技前の消毒を徹底させるなど昨年以上の対策を行いました。そのような中、生徒たちはこれまでの練習や準備の成果を発揮し、全力で取り組みました。



【青組のデコ】



【赤組のデコ】



【1年生リレー】



【レスキュー隊出動】



【私を落とさないでね】



【競技前の消毒】



【3年生リレー】



【緊急指令！】



【ディスタンス綱引き】



【2年生リレー】



【大玉ころがし】



【色別リレー】



【赤組衣装】



【青組衣装】



【赤組集合写真】



【青組集合写真】



【赤組の応援】



【みんな仲良く全員集合】



【青組の応援】

体育祭を終えて

体育祭を迎えるまでに3年生にとってはいろいろな苦労や思いがあったと思いますので、各色のリーダーに体育祭について振り返ってもらいました。

《赤組色長》 片寄 岳さん

- まず、僕が色長をしてみても思ったことは、責任感や人をまとめる力が必要な仕事だと思いました。最初は、1、2年生をまとめる自信があまりなくて、ずっと大丈夫かなと思っていて自分だけでやろうとしていましたが、周りの3年生が救ってくれました。僕は「チーム」というものを忘れていました。この体育祭が人生の大きな宝物になりました。

《赤組応援団長》 堀江文之祐さん

- 最初はあまり良い練習じゃないと思っていましたが、数を重ねることでドンドンうまくなっていました。皆がよくリーダーの指示を聞いてくれたり、指示が的確になっているのだなと思いました。結果、とてもよい応援合戦ができたのでリーダーや皆が頑張ったお陰だと思いました。

《赤組衣装長》 木村里奈さん

- 衣装長は思っているよりも大変でした。でも、衣装のみんなで協力して、かっこいい衣装をつくることができました。ダンスを覚えるのも大変だったし、放課後に残ることもあったけど、みんないやがることなく協力してくれました。一番よい結果にはならなかったけど、総合優勝はできたし、楽しく体育祭ができたのでよかったです。

《赤組デコ長》 平井恭悟さん

- 始めの準備の差や画力などが1位と2位を決定づけたと思いますが、初期のあの状態から最後の仕上げの段階までもっていったというのはすごくよかったです。最後の仕上げで、もしかしたら本当に1位になれるのかなと思いましたが、結果的に2位となりその思いはただの予想となってしまいました。来年赤組になった2年生の方は、1位になれるように頑張ってください。

《青組色長》 白築 葵さん

- これまでは少し自分をおさえてしまうことが多かったけど、今回の体育祭は自分にできることを全てやり切りました。結果は今一つでしたが、青組全員で自信をもってやったのでよかったです。最初は乗り気でなかったけど、色長をやれてよかったです。

《青組応援団長》 市場瑛斗さん

- 声がかれました。ですが、それほど楽しくて一生懸命にやれたので嬉しかったです。また、青組は負けてしまったけれども1、2年生が笑顔でやってくれたので満足です。またやりたいです。

《青組衣装長》 坂田舞さん

- 体育祭の準備が始まるころで、衣装がなかなか決まらなかったけど衣装の人やダンスの人に案をもらってよい衣装を作ることが出来ました。時々、衣装の人がバラバラになることもあったけど最後はみんなで楽しく作り終えることができてよかったです。体育祭を1～3年生が楽しめてとてもよい体育祭になったと思いました。

《青組デコ長》 陶山和夏さん

- デコのメンバーは誰もがデコ作りの経験がなく、私も初めてのデコ長ということで最初は不安いっぱいでした。しかし、メンバー一人一人が一生懸命取り組んでくれたお陰で想像を遥かに上回ったデコを完成させることができました。失敗もたくさんしたけれど全員でフォローし合い、楽しく最後までやり遂げました。そして、自分たちが1から作ったデコが優勝した時は、言葉にできないほど嬉しかったです。私にとって最高の体育祭でした。

少年の主張雲南市大会

8月30日(月)に第17回少年の主張雲南市大会が本校を会場に行われました。今年は感染対策をした上で弁士の思いや熱意等の臨場感を審査員に伝えたいと思い、弁論会場に審査員、主催者、弁士のみとし、各教室をリモートでつなぎ開催しました。どの弁士も自らの体験を通して感じたり考えたりしたことを、パフォーマンスも交え熱のこもった弁論を披露しました。本校からは、3年小林葵さん、2年生の小林優那さんの2名が出場しました。



【大切な私の家族：小林 葵さん】

○人と会話することが苦手だった小林さん。お母さんのやさしい言葉がけや心配により、徐々に前向きな考え方になっていく様子がよく伝わってきました。そして、今度は自分が人の支えになりたいと言えるほど成長できたことは素晴らしいと思いました。

《審査員からのコメント：小林 葵さん》

○「言葉にしないと気持ちは伝わらない」と分かっているのに、大人に近づくとそれが難しいと感じるようになります。乗り越えるヒントは「おばあさん」にありましたね。「笑顔で『ありがとう』とうこと」が、「心が通い合う特別な言葉」だと気づいた優那さんの心は明るい社会をつくるもとです。その輪を広げてください。

《審査員からのコメント：小林優那さん》

○「言葉にしないと気持ちは伝わらない」と分かっているのに、大人に近づくとそれが難しいと感じるようになります。乗り越えるヒントは「おばあさん」にありましたね。「笑顔で『ありがとう』とうこと」が、「心が通い合う特別な言葉」だと気づいた優那さんの心は明るい社会をつくるもとです。その輪を広げてください。

《審査結果》 優秀賞 小林 葵さん、小林優那さん
ふるまい推進賞 小林優那さん

恵贈のお礼

三刀屋町内の保育所、こども園、小学校、中学校では、発達段階に応じて絵本の読み聞かせや絵本の貸し出し、地域の人による読み聞かせ、朝読書など読書活動に取り組んでいます。発達段階に応じた読書活動を通して言語の獲得や豊かな感性の育成を目指しています。7月の学校だよりの中で、キャリア教育推進部が三刀屋町内に本の寄贈を呼びかけたところ多くの方が保育所、こども園、小学校、中学校に本を寄贈していただきました。寄贈された本を合わせると345冊でした。1冊1冊の本を見ていると、我が子に対する思いや願い、愛情が込められていることが伝わってきました。そのような思いが詰まった大切な本ですので、子どもたちの健やかな成長のために有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

また、三刀屋高等学校のJOC部の方に協力をいただき、町内の有線放送で本の寄贈についての呼びかけをしていただきました。改めて地域とのつながり、地域に支えられて教育活動できていることを強く感じました。



【寄贈された本の数々】